

Heart of Tajimi
— たじみ市民討議会2015 —

実施報告書



2015年12月

たじみ市民討議会 実行委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 協賛者ご挨拶	2
3. たじみ市民討議会 2015 について	3～5
3 - 1 概要	3
3 - 2 協定書締結	3
3 - 3 運営組織	3
3 - 4 実行委員会	4
3 - 5 活動計画と実績	4
4. 討議会の実施について	6～7
4 - 1 テーマ選定について	6
4 - 2 参加者について	6
4 - 3 謝礼について	6
4 - 4 討議の方法	6
4 - 5 情報提供について	7
4 - 6 話し合いのルール	7
5. 討議会の結果と市民からの提言	7～9
討議テーマ 1:あなたにとって大切なつながりは何ですか?	8
討議テーマ 2:私たちにできる「防災」について考えよう	8
討議テーマ 3:私たちにできる「防犯」について考えよう	9
6. 『たじみ市民討議会 2015』の検証	10
7. 『たじみ市民討議会』の今後の取り組み	10
7 - 1 参加者年齢の検討	10
7 - 2 事後のフォロー	10
8. 終わりに	11
資料 1. 話し合いシート	12～32
資料 2. 参加者アンケート	32～34

1. はじめに

本報告書は「たじみ市民討議会実行委員会」が多治見市役所と協定を締結し、(一社)多治見青年会議所のご協力を得て実施した「Heart of Tajimi -たじみ市民討議会2015-」について、報告するものである。

2015年の「たじみ市民討議会」は6月20日、21日に多治見市民34人の参加を得て実施された。基本コンセプトとして『日本一住みやすいまち たじみ』を掲げ、市民の『つながり』を意識して、『あなたにとって大切なつながりは何ですか?』『私たちにできる「防災」について考えよう』『私たちにできる「防犯」について考えよう』の3つのテーマについて話し合いを行って頂いた結果を検証し、またその結果を集計・分析して多治見市政に資するべく提言を行った。



2. 協賛者ご挨拶

多治見市における市民討議会は、市民の平均的意見・無言の多数派（サイレント・マジョリティー）を収集し、市政に反映させていくプラクティクスツェレと言うドイツで誕生した手法を応用し「市民の声」「社会の声」を行政に反映させる仕組みとして、2009年に（一社）多治見青年会議所が企画立案し、多治見市との共催で第1回目を主催したのが始まりであります。

以来（一社）多治見青年会議所が中心となり、討議会参加者の有志を募って実行委員会を組織し、市民の「声なき声」を行政に反映させる市民参加の仕組みの礎を整えて参りました。そして2013年の第5回目より、市民ボランティアの皆様が主導する実行委員会を組織して企画運営にあたって頂き、我々（一社）多治見青年会議所は市役所と共に、協力、支援を行わせて頂く形となり、本年で第7回目を迎える事が出来ました。

これまで市民討議会の趣旨に御賛同頂き御尽力頂いた市民ボランティアの皆様、市役所の皆様に、深い感謝の意と敬意を表します。

本年度は、これからの人口減少を背景に「人と人とのつながり」、そしてそのつながりを礎とした「防災」「防犯」をテーマとして開催されました。参加される市民の方々にとっても身近なテーマであったことから、内容の濃い議論をして頂く事が出来、我々青年会議所にとっても学びの多い市民討議会を執り行って頂く事が出来ました。テーマ選定から提言書の作成まで、ほぼ全ての流れを実行委員会の皆様に行って頂き、我々（一社）多治見青年会議所が市民討議会を始めるにあたり目指した「市民主導によるまちづくり」に向け、着実な一歩を刻んで頂く事が出来たと感じております。

また、本年は下呂市において、多治見の市民討議会を参考に自分のまちでも市民討議会を立ち上げたいというお話を頂き、たじみ市民討議会実行委員会と（一社）多治見青年会議所と共同で、支援を行わせて頂きました。「市民主導によるまちづくり」という趣旨が、まちを超えて広がっている事を大変喜ばしく思います。

このまちの将来を考える時、少子高齢化を背景として、教育や医療のあり方、地場産業や地域経済のあり方、公共と民間のバランス調整など、様々な課題が考えられます。こうした中、一人でも多くの市民の方に、自分たちのまちに関心を持ち自分たちでまちを作るという意識を持って頂く事が、大変重要であると考えます。市民討議会が、こうした市民を一人でも増やしていく場として益々発展されます事と、皆様の御健勝を御祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。



（一社）多治見青年会議所
第61代理事長 奥村崇仁

3. たじみ市民討議会 2015 について

3 - 1 概要

『たじみ市民討議会』はドイツで提唱された『プラーヌクスツェレ』を参考に、2009年に（一社）多治見青年会議所が、「Heart of Tajimi -たじみ市民討議会 2009-」と題して、第1回『たじみ市民討議会』を企画・実施し、以後2012年に市民による実行委員会を立ち上げ、本年に至る7年間継続して実施している。

『たじみ市民討議会』は広く市民の「声なき声」を集約すべく20歳以上の多治見市民を対象に、住民基本台帳を基に無作為抽出して35人前後の参加により、年ごとに設定したテーマに沿って話し合いを行って頂き、意見を集約・合意形成した結果を行政に提言を行う市民活動である。

3 - 2 協定書締結

『市民討議会』を実施するにあたり、実行委員会と多治見市との間で『協定書』を締結した。協定の内容は、①実施の目的、②相互の協働の精神に基づく原則、③役割と責務等を明確にし、確認するものである。



3 - 3 運営組織

実行委員会は市民委員17人で次のように組織した。

- ・実行委員会委員長（1名）と副委員長（若干名）で運営し、会を代表する。
- ・書記は特定せず、議事録は都度記録担当を指名して委員のモチベーションの維持、向上を図った。
- ・運営にあたって必要に応じて運営委員（若干名）を招集して運営方法を協議した。
- ・オブザーバーとして（一社）多治見青年会議所「地域の宝創造委員会」メンバー、多治見市秘書広報課の職員にも参加して頂いた。

3 - 4 実行委員会

実行委員会は、都度議事テーマを決め、2回／月の頻度で開催した。活動の記録は、次項3 - 5『活動計画と実績』に記す。

3 - 5 活動計画と実績

活動は2014年11月から2015年9月までの間で、計画に沿って活動をした。計画は次の通り立案した。

- 第 1回 キックオフ
- 第 2回 基本的考え方について、討議テーマについて
- 第 3回 討議テーマについて（方向性の確認）
- 第 4回 討議テーマの方向性の決定
- 第 5回 小間数について
- 第 6回 具体的討議テーマについて
- 第 7回 具体的討議テーマについて
- 第 8回 具体的討議テーマについて
- 第 9回 具体的討議テーマについて
- 第10回 具体的討議テーマについて、情報提供依頼
- 第11回 『協定書』調印（5月13日）
- 第12回 『参加依頼書』発送準備
- 第13回 役割分担
- 第14回 模造紙（話し合いシート）作成、他事前準備
- 第15回 会場設営
 - 『市民討議会』（1日目）開催（6月20日）
 - 『市民討議会』（2日目）開催（6月21日）
- 第16回 反省会
- 第17回 まとめ作業
- 第18回 まとめ作業
- 第19回 まとめ作業
- 第20回 『中間報告会』
 - 『提言書』提出（9月3日）



実績は次の通りであり、概ね計画通り進捗した。

- 第 1 回 キックオフ（新規会員 4 名が参加）
- 第 2 回 基本的考え方について、討議テーマについて
- 第 3 回 討議テーマについて（方向性の確認）（新規会員 2 名が参加）
- 第 4 回 活動計画・統一テーマについて
- 第 5 回 統一テーマについて『つながり』とすることを確認
- 第 6 回 討議テーマについて『防犯』『防災』とすることを議決
- 第 7 回 討議テーマの詳細を議論
- 第 8 回 討議テーマの詳細を確認・小間数について検討
- 第 9 回 討議テーマの文言を検討
- 第 10 回 情報提供依頼について
- 第 11 回 具体的討議テーマの決定について確認
- 第 12 回 役割分担の確認、模擬討議会の実施
- 第 13 回 『参加依頼書』 発送準備
『協定書』 調印（5月13日）
- 第 14 回 進行係の練習
- 第 15 回 情報提供リハーサル
- 第 16 回 アンケートについて検討
- 第 17 回 模造紙（話し合いシート） 準備
- 第 18 回 会場設営
『市民討議会』（1日目）開催（6月20日）
『市民討議会』（2日目）開催（6月21日）
- 第 19 回 反省会
- 第 20 回 まとめ作業（『提言書(案)』作成）W・G）
- 第 21 回 まとめ作業（『提言書(案)』に対する意見交換）
- 第 22 回 まとめ作業（『提言書(案)』 審議）
- 第 23 回 『提言書（案）』 まとめ
- 第 24 回 『中間報告会』
『提言書』 提出（9月3日）
- 第 25 回 総括



4. 討議会の実施について

『たじみ市民討議会2015』は以下の要領で実施した。

討議会は5～6人の単位で6グループを形成し、2日で3テーマについて参加者同士で意見交換をする。また、テーマごとにグループ編成を行い、メンバーの入れ替えを行う。

4 - 1 テーマ選定について

テーマ選定にあたっては、市民の共通の関心事で行政との共働が可能なものとすることを意識して議論を重ねた。また、市民としてやるべきこと、出来る事が明確にイメージでき、行政に対しては具体的な提言が出来る事を念頭に置いた。

コンセプトとして『たじみ市民討議会』理念である『日本一住みやすいまち たじみ』を継承することとした。

7回に亘る実行委員会を経て、前年大きく報道された少年による凶悪犯罪を未然防止したい、また多治見での豪雨をはじめとする自然災害に如何に備えるかについて市民の意見を集約して、行政への提言をまとめたという考えから、『つながり』を基調とした次の討議テーマを選定した。

- ①あなたにとって大切なつながりは何ですか？
- ②私たちにできる「防災」について考えよう
- ③私たちにできる「防犯」について考えよう

4 - 2 参加者について

参加者は多治見市で管理される『住民基本台帳』から20歳以上の市民を無作為に抽出して、1,600人に『参加依頼書』を郵送し39人から参加の回答を得た。参加回答者のうち5人は当日までに事情により不参加の連絡があり当日の参加者は34人であった。

4 - 3 謝礼について

参加者に対しては、2日間の参加を条件に6,000円の『謝礼』をした。単に『謝礼』と言うだけでなく、各自の発言には責任を持って頂く。(無責任な発言は控える)という意味合いがあり事前説明で確認をした。

4 - 4 討議の方法

討議は次のように行った。

グループ討議：話し合いは、実行委員が補助係(2名/グループ)としてサポートし、補助係の進行によって自由な話し合いを行う。

それぞれの意見は付箋に記載して、準備した模造紙に貼り付ける。

まとめ：話し合いの結果は「まとめ1」「まとめ2」「まとめ3」として模造紙に記入して合意形成をする。

「残したい意見」があれば併記する。

発表：まとめた意見の内容をグループごとに発表を行う。

全てのグループの模造紙を一覧として張り出す。

投票：各グループでまとめた全グループの意見は、参加者全員が各々賛同する意見「まとめ」に投票する。

4 - 5 情報提供について

グループ討議に先立ち専門家、先進活動グループなどによる『情報提供』を行う。

『つながり』について市民討議会の主旨説明に併せて、今なぜ『つながり』が必要か、ひとは『つながり』を求めるのか、『つながる』ためには、について河地章副委員長が説明した。

『防災』については、地域で防災活動を推進している、多治見市第36区区長の武笠正治氏にレクチャーをお願いした。

『防犯』に関しては多治見市根本校区の『ねもと校区地域力推進会議』で防犯を担当される藤井陸夫氏にレクチャーをお願いした。

4 - 6 話し合いのルール

話し合いのルールとして、次のことを確認し合った。

- ・参加者は親しみを込めて「さん」づけで呼び合う
- ・全員が発言する（発言できるよう配慮する）
- ・他の意見を全否定しない
- ・テーマについて結論を出す
- ・自由に意見を出す
- ・アイデアの実施、実行の可否にこだわらない
- ・他の意見を参考にしても良い

5. 討議会の結果と市民からの提言

討議会の結果は、模造紙に記載された「まとめ」意見を基に精査し、投票の多寡を考慮して『提言（案）』を策定し実行委員会で協議を重ね、中間報告会で参加市民の承認を得て『提言書』として次のように作成して2015年9月3日に古川雅典多治見市長に手渡した。



提言書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会ー 2015」

基本理念『日本一住みやすいまち「たじみ」』

2015年6月20日、21日に市民34人の参加を得て、『つながり』を統一テーマとした討議会を実施しました。市民が『つながり』を通して自助、共助をいかに考え、行動しようとしているかについて意見交換した結果を以下に提言いたします。

討議テーマ 1: あなたにとって大切なつながりは何ですか？

市民は日常的にあらゆる場面で『つながりの必要性』を感じており『つながってほしい』と考えています。反面、だんだん希薄になっていく人間関係を憂慮しています。

自らコミュニティの形成を望み、行動する市民として以下のとおり提言します。

1) 気軽に多くの市民が参加できるイベントを企画、拡大することを望みます。

例えばラジオ体操は身近で気軽に参加できるイベントです。毎年夏季に関係団体により市内の公園や小学校グラウンドでラジオ体操が実施されていますが、特定地域での開催であり、域外の市民の認知度は高くないようです。

ラジオ体操を身近な町内単位の公園に拡大することで近隣の市民が気軽に参加でき、挨拶を交わすなど基本的なコミュニティの形成が可能になります。行政には関係団体・自治会と連携して開催場所、時期の拡大を推進することを望みます。

2) 公共交通のインフラ整備と、充実を望みます。

高齢化が進む住宅団地において、交通弱者の増加が加速しています。周辺地域と中心市街地における小型のオンデマンドバスや乗り合いタクシーの運行、またバスの一日乗車券や年間パスポートの発行などにより『まちのにぎわい』を創出し、市民の交流が促進されます。あるいは、ボランティアで交通弱者の支援を行おうという市民に、車両の貸し出しや燃料費の補助を行うなどの施策を企画し、アピールすることを望みます。

3) 公園の有効利用を望みます。

公園は多くの人が集う憩いの場です。しかし市内の公園は事故等の未然防止のために、様々な制約事項があります。市民は公園の多様な活用を通して交流機会の拡大を望んでいます。

実験的な運用として、公園を特定して球技やドッグラン、フリーマーケットなどを許可するような施策を望みます。

討議テーマ 2: 私たちにできる「防災」について考えよう

今後起こりうる災害に対して、私たち自身も備えることの重要性を理解しています。しかし、ハザードマップも各種情報伝達手段も十分に活用できていないと感じています。そこで、防災意識を高め災害時の被害を最小限にとどめるために、以下の提言を行います。

1) 今までにない形の防災訓練の実施を望みます。

学校や自治会での防災訓練は実施されています。さらに参加者を増やすために、従来の防災訓練だけでなく、これまで参加していない人々が参加できるような防災訓練の実施を要望します。例えば、サバイバル講座や防災クイズ、合コンなどのイベントの要素を取り込んだ訓練などが考えられます。また防災マップ(土砂災害ハザードマップ、内水ハザードマップ)をみんなで確認するイベントなども有効と考えます。これらを通して地域全体での防災意識を高めることにつながります。

2) 災害が起こったことを想定し、必要となる情報の提供を望みます。

市や自治会でも災害時の準備をしていますが、市民がそれらを十分に把握できておらず、災害時に有効活用できないのではないかと心配しています。

各地区の備蓄倉庫の状況を周知してもらうとともに、各家庭で必要となる備蓄リストの情報を教えてもらえれば、私たちの準備も容易になります。

また、ペットも家族同様と考える人が増えていますので、他の自治体で一時的に受け入れてもらえるようなしくみがあると安心です。

3) 災害時に必要な情報が確実に受け取れるしくみの整備を望みます。

現在でも防災無線やメールサービス等は実施されています。ただこれらが災害時にどのように機能するのか、私たちがしっかりとイメージをつかんでおくことが重要だと思います。

FMPiPi やケーブルテレビ、インターネット及び防災無線等が災害時にどのように機能するかの検証をするともに、必要に応じて事前訓練を行うことも検討して頂きたい。また駅前に大型ビジョンを設置するなど、普段から防災情報を流すことで防災意識の高揚を促すとともに、災害時には情報発信源として活用できると考えます。

討議テーマ 3: 私たちにできる「防犯」について考えよう

市民の多くはどんな犯罪が身近で起こっているのか、リアルタイムな情報をいち早く知りたいと思っています。またその情報を防犯に活かさないかを考えています。そしてその中でも自分に出来ることはないか？他の人とともに協力出来る事がないかを模索しています。それを実現するために以下の提言を行います。

1) 統一した防犯グッズの作成を望みます。

自分の家族のためだけでなく、防犯グッズを身に付けて、周りの人への声掛けや、散歩を兼ねた地域の見廻りをする事で、「まちの目」としての防犯効果を高めることが出来るのではないかと考えます。その具体的な方法として、多治見市独自のオリジナル防犯グッズ(例えば「見てます！」ステッカーや、防犯タスキ、防犯をアピールした傘など)を作成することにより防犯意識を高めていきたいと思ひます。

2) メールや広報を利用したリアルタイムな情報の提供を望みます。

現代において、振込詐欺やインターネット詐欺など犯罪が多様化している中で、未然に犯罪を防ぐには、リアルタイムな犯罪情報の共有が重要ではないかと考えます。多治見市や学校の不審者情報メール、警察からのメール情報などはあるものの、十分に利用されていないようです。また情報が遅延することにより新たな被害者が出る懸念があります。

市民がリアルタイムで知ることが出来るような防災無線を利用した犯罪情報の提供など、市民がいち早く犯罪情報を共有できるような仕組みを望みます。

3) みんなで防犯意識を高めるような機会の創出を望みます。

市民は多治見市でどんな犯罪が起きているのか知りたいと思っています。個々の防犯意識は高いものの、地域として、または市として犯罪情報等の共有や連携が十分でないと感じています。またお互いに協力して何かをしたいとも思っています。

そこで地域としての防犯意識を高められるような機会の創出(例えば個々でつながりが持てるような防犯セミナーや、実際に犯罪に遭った方の体験談など)を望みます。そのような機会の中から、地域パトロール等の自主防犯組織が設立されるような意識改革が出来るのではないかと考えます。



2015年9月3日

たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 竹本幸二

6. 『たじみ市民討議会 2015』の検証

～たじみ市民討議会の有用性～

市民討議会の一歩の成果は、市民が行政に関心を持つことである。討議会終了後のアンケートでは、『行政に積極的に関わり行動すべき』『行政への参画意識が持てた』や『行政に関心が持てた』との感想が90%以上を占めた。行政に市民の意見を反映させる手法として60%が『適している』と回答している。

また、今回も質の高い具体的な提言が出来たことはその証であろう。

7. 『たじみ市民討議会』の今後の取り組み

7-1 参加者年齢の検討

選挙制度が改正され選挙年齢が18歳以上に引き下げられたことによる参加者年齢を引き下げる事が可能か検討をする必要がある。参加者年齢について、参加者アンケートでは87%が18歳以上とすることに『良い』と回答している。参加者対象を18歳以上とするには、『謝礼』の扱いや教育現場の意見など、解決しておく課題がある。

7-2 事後のフォロー

参加者に対しては『中間報告会』を設けて、『提言(案)』を提示し、承認を得て『提言書』としている。また、多治見市のHPには逐次『提言』の内容と『提言』に対する行政の取り組みを開示して頂いている。より多くの参加者にモチベーションを維持して頂けるよう、フォローアップが必要である。

8. 終わりに

まずは『たじみ市民討議会2015』が成功裏に終了したことを素直に実行委員全員と共に喜びたい。そして、この活動に惜しみないご支援、ご協力を頂いた（一社）多治見市青年会議所、及び多治見市役所に心からお礼を申し上げる。

2015年の市民討議会を運営するに当たり過去6年間に蓄積した経験と、ノウハウを礎にいくつかの新しい試みに挑戦してみた。

第1は討議テーマを3テーマとしたことである。過去のアンケートを分析した結果、「討議時間が短い、より深く意見交換をしたい」という意見が多かったことから、討議テーマを3つとして1小間の意見交換と、まとめの時間を長くした。時間を長くした結果話し合いの内容は密になり、まとめ意見も簡潔で建設的なものとなった。

第2は「進行係」「まとめ係」「発表係」のうち、「進行係」をスタッフが担当したことである。従来、「参加者が話し合いを自主的に運営する」という趣旨で「進行・まとめ・発表」の各係は参加者の中から互選で選任してきたが、参加者全員に平等に平均的に意見を引き出すことを目的に「進行係」をスタッフが担当することとした。スタッフの中には戸惑いもあったが、事前のレクチャーや模擬討議会を繰り返すことで解決できた。

第3は『提言（案）』をW・G（ワーキング・グループ）で分担して策定としたことである。討議テーマごとに少人数のW・Gを編成し、グループ単位にミーティングを複数回実施して素案を策定し、全員で協議して検証を繰り返した。委員各自の参画意識とモチベーションの向上が図れた。

以上の試みを行い、「たじみ流」市民討議会は新たな1歩を踏み出したと言えるであろう。今後も試行錯誤を繰り返しながら「たじみ流」を模索していきたい。

たじみ市民討議会2015
実行委員長 竹本 幸二



資料1. 話し合いシート

参加者を5～6人の単位で6グループに編成して、3つの討議テーマについて付箋に意見を書き出して頂き、グループの意見「まとめ」として発表して頂いた。

話し合いシートを以下に示す。 ※基本、原文のまま

討議テーマ1. あなたにとって大切なつながりは何ですか？

Aグループのまとめ意見	投票数
1. 近所の人と挨拶を通じて自分を知ってもらう交流が必要です	10
2. ボランティア（助け合い）への参加するきっかけを作る	9
3. つながりを作るための相談の場が欲しい	8
残したい意見	
・同世代と交流が出来る場を作りたい	12
Bグループのまとめ意見	
1. <私が思うつながり>	2
・家族、ご近所、多治見市全体	
2. <自分が出来る事>	8
・自分が参加できる地域行事は何か？	
・行動できる時間帯はいつか？	
・趣味を作る	
・自ら行動できない人は近所を大切に	
3. <つながるための具体策>	7
・犬の散歩でつながりを求める	
・複合施設があると良い	
・体育館、公園など大人も使える場所が欲しい	
残したい意見	
・無し	
Cグループのまとめ意見	
1. 地域とのつながりが必要	0
2. 家族、友人、同僚とのつながり	1
3. SNSなどのネットワークと趣味、サークルによるつながりが必要	5
残したい意見	6
・自然と人、人とひとが繋がれるような環境を提供してほしい	

Dグループのまとめ意見	
1. <現在のつながり>	0
・家族、友人、会社、町内、ボランティア	
2. <今後のつながり、一般>	19
・駅周辺で人が集うイベント	
・年齢差のあるつながり	
・目的のあるつながり	
・スポーツを通じたつながり	
3. <今後のつながり、町内会関係>	5
・地域の同年代が集えるつながり	
・行事の中へレクリエーションを組み込んでつながりを持つ	
・異世代が参加できる行事	
残したい意見<今後のつながり、市全体>	7
・市全体の参加型行事 (ラジオ体操など気軽に参加できるもの)	
Eグループのまとめ意見	
1. 人とひとのつながりを大切にし、子どもを中心に輪を広げる	9
・子育て等魅力あるまちづくりを！！	
2. 人とひとのつながりの第一歩は“あいさつ”	6
3. 環境に配慮する	2
・土岐川に桜の木を植えてほしい(植樹会を立ち上げる)	
残したい意見	13
・バスの本数を増やし、年間パスを利用するなど皆でバスを利用する	
Fグループのまとめ意見	
1. 親と子の信頼から始まる大人と子どもの信頼	7
2. 同じ趣味や嗜好を持つ人たちの集まり	8
3. 大人から子どもまで集まれるテーマパーク	5
残したい意見	
・公共交通機関の充実	18
Aグループで出た意見(付箋)	
・聴覚障がい者とのつながり	
・ボランティアへの参加をしやすくする	
・ボランティア活動をもっと周りに知らせてほしい	

- ・猫つながりがある
- ・近所付き合い
- ・高齢者とのつながり
- ・お年寄りを手伝えるサポートのボランティアなど活動する
- ・地域の知らない人と、どこまで関わって良いのかわかるようになりたい
- ・挨拶を大切にしたい
- ・30代、40代、50代というように年齢ごとに同窓会があると良い
- ・若い世代との意見交流会が有れば良い
- ・若者に対する精神的なサポートの充実が望ましい
- ・パーソナルサポートセンターの復活
- ・個人情報についてデメリットを理解してもらう

Bグループで出た意見（付箋）

- ・ご近所（町内）
- ・近所ではなくそんなに遠くない多治見市民、地元
- ・近所付き合い
- ・つながっている人は大切な相手である
- ・お互いを助け合い頼りにする、分かり合える
- ・家族のつながり。安心して奥さんが働ける環境を
- ・地域の行事に参加する
- ・強制ではないもの、負担感の少ないもの
- ・時間が合えば（平日の夜など）
- ・町内イベントに自ら参加する
- ・つながりを持つために自分が行動できる時間帯はいつか？
- ・地域内のつながり。イベントなどやられている事を知らない、回覧板を見ない
- ・人が集まる場所に参加する
- ・趣味を作り、集まりを作る。または参加する
- ・自分の家の周りをきれいにしよう。道路のゴミ、草、雪かき等々
- ・お互い歩み寄り
- ・どんなことでもつながりを持っていたいと思う
- ・人付き合いが苦手な方は、向う三軒両隣を大切にする
- ・公園に自由に使える大人のための機械が有り、ダイエットや体力づくりに有効なもので有れば良い
- ・動物でのつながり
- ・大きな公園（ジョギングや散歩など）
- ・複合産業施設（子どもも大人も楽しめる）

- ・どんなことがあるのか知る努力（散歩、体操）
- ・他市とのつながり（職場とのつながり）、交通駅周辺の利便（テラ潰すの？）
- ・グラウンドゴルフ、ゲートボール、ラジオ体操
- ・市とのつながり
- ・帰ってくるとほとんどの店が閉まっている、休日特に行くところが市内にない
- ・参加賞、商品券

Cグループで出た意見（付箋）

- ・故郷、血縁
- ・町内
- ・近所、町内、子ども会、昔は知らない人がいなかった
- ・町内の人とのつながり
- ・自治会組織
- ・空き家問題
- ・区をつながり、町内をつながり、班をつながり
- ・新興の住宅
- ・昔からの住宅
- ・アッシーくん
- ・シャトル便
- ・仕事→同僚
- ・転職した際
- ・家族、親せき
- ・家族、身内介護
- ・同郷
- ・友人、同級生
- ・犯罪
- ・サークル仲間
- ・小、中学校時代、バスケットチーム
- ・イベント
- ・SNS
- ・スマホやLINEのつながり
- ・ママ友で地区別のつながり
- ・趣味
- ・無料の公園
- ・自然（ホタル、ホトトギス、ウグイス）
- ・集まる場所がない



- ・ 公共施設
- ・ 多治見市とのつながり
- ・ 出会い系の弊害
- ・ 年金流出
- ・ 個人情報流出
- ・ スマホのウィルス感染

Dグループで出た意見（付箋）

- ・ 家族とのつながり
- ・ 友達とのつながり
- ・ 自営の会社とのつながり（社員、労務士さんなど）
- ・ 友人の集まり（月1回）
- ・ 友人ネットでのやり取り
- ・ 市外の職場とのつながり
- ・ 市外の会社
- ・ 会社の飲み会への継続付き合い
- ・ 町内の人たち
- ・ 朝散歩（ウォーキング）でのあいさつつながり
- ・ 町内のつながり
- ・ 月1～2回の名古屋での酒の付き合いによる対話（過去の会社付き合いの延長）
- ・ 近所住民とのつながり
- ・ 町内会会議における話し合いによる近隣の方とのつながり
- ・ 駅前でお客が立ち寄る事が出来るつながりをつくる
- ・ 駅周辺のつながり
- ・ 駅の南北がもっとつながれば（線路を高架）
- ・ 駅に少しでも留まる仕組み
- ・ 市のイベント参加
- ・ サッカー、野球、バスケットボールなど子どもの親、指導者とのつながり
- ・ 目的のあるつながりが欲しい（一緒に行動できるつながり）
- ・ 年が離れた人たちとのつながり
- ・ 町内会にもっと参加（同窓会など楽しい集まりがステキ）
- ・ 異世代の参加
- ・ 町内（行事）のつながり、レクリエーション、スポーツ
- ・ 町内単位での若い人とのつながり
- ・ 多治見市民全員が参加できるイベント
- ・ ラジオ体操など気軽に参加できる

E グループで出た意見（付箋）

- ・ ホワイトタウンのボランティア（送迎サービス）活動がすごい
- ・ 子どもを大切にし、魅力ある教育を目指してほしい
（波及効果で若い人が多く住める街にしてほしい）
- ・ 若い人が移り住んでほしい、そのために市は頑張ってもらいたい
- ・ 公園での井戸端会議的な事
- ・ 多治見に若い人を呼び込む政策
- ・ 子ども達が大きくなってもつながれる人間関係
- ・ 子どもを中心につながるまちを目指してほしい、そのために若い人が住みやすく暮らしやすいまちにほしい
- ・ 子育てしやすいまち、産みやすいまちにほしい
- ・ 人と人とのつながりを大切にし、子どもを中心に和を広げる
- ・ 交通（バス）運賃の補助、本数が少ない
- ・ つながりの第一歩は「あいさつ」
- ・ 子ども達が挨拶をしっかりとってくれる
- ・ 子どもからの挨拶を嬉しく思う
- ・ 近所との挨拶、子育て世代が住みやすいまち、民生委員の見回り
- ・ 町内会で年の差で話しにくい、町内会はないがちょっとしたイベントがある
- ・ 土岐川に是非桜を植えてほしい
- ・ イベントが少ないからつながりをつくる機会も少ない
- ・ つながりを持つためのパイプ役
- ・ 親のつながりのパイプ役は子どもだから子どもたちが住みやすい工夫をする

F グループで出た意見（付箋）

- ・ 挨拶のむずかしさ
- ・ 大人から子どもまで信用、信頼がつながりの基本
- ・ 他人との距離感、広いものから信頼を持てるように
- ・ 人と人との信頼関係の築き上げ
- ・ 子どもからのつながりが持てるように
- ・ 子どもとのつながりは親との信頼感
- ・ 家族というコミュニティ
- ・ 三代、四代の家族のつながり
- ・ 教育専門家による両親への教育講座を市が案内する
- ・ 親の教育（4・3・6・3制）
- ・ 礼儀、マナー
- ・ 大人は子どもにできるだけ思い出を残してやる

- ・外のつながり（市外交流、留学）
- ・子ども&大人のクラブ活動
- ・大人のコミュニティ
- ・クラブ活動
- ・町内会でのつながりは難しい
- ・市が場所を提供して大人クラブ（同好会）をつくり、それを基につながりを広げる
- ・消滅可能性都市を回避するためにテーマ広場をつくる
- ・テーマパークが必要
- ・色々な祭り
- ・公共交通機関の充実
- ・様々なつながり

討議テーマ2. 私たちにできる「防災」について考えよう

Aグループのまとめ意見	投票数
1. 「火災」ライフスタイルの見直し	2
・コンセントなど気が付きにくい場所への気配り	
・たばこの不始末（特に就寝時）	
・消火栓の設置場所の確認	
2. 「水害」地域における情報収集の重要性	4
・ライブカメラの存在を知ってもらい、利用してもらう	
・地元のFM P i P i が非常に有効	
・乗車中に水害にあう場合を想定して、車にハンマーを入れる	
3. 「地震」地域の連携や実際に会う事の大切さ	9
・子ども達のつながりをきっかけとして地域全域の連携	
・町内行事を充実させる（イベント、訓練）	
・子ども、お年寄りに対する非常食の意識、優先	
残したい意見	
・災害における情報の認知、宣伝の充実	1
Bグループのまとめ意見	
1. <認識>	0
・危険箇所の共有（個の単位で）	
・避難所の把握	
2. <情報>	4
・（視覚）マップ、ルート、看板の作成、過去の災害情報の開示	

- ・(聴覚) FM P i P i の範囲拡大、行政放送、伝言ダイヤルの設置
3. <行動> 1 3
- ・次世代へ伝えていく
 - ・指導者の育成、支援（資金面等の行政によるサポート）
 - ・指導者の育成（支援のマニュアル化、個々の地域への対応）
 - ・非常食等の準備（行政によるリスト提示）
 - ・誰でもわかる避難経路（観光客にも分かる看板の設置）

残したい意見

- ・無し

Cグループのまとめ意見

1. <地域の中のつながりをつくる> 7
- ・実際に歩いて地形、危険箇所をチェックし、マップを作る。それを全世帯に配る
 - ・2次災害の防止につながる
2. <市の発信している情報を如何に受け取らせるか> 4
- ・ホームページを集合住宅に掲示、又はみんなで見る機会を開催
 - ・メールマガジンで配信をする
3. <市全体で防災訓練をする> 8
- ・小学校、中学校も一緒に行う事により、地域全体の意識を高める

残したい意見 7

- ・「ハートビジョン多治見」
駅に大きなビジョンを設置し、防災に関する情報を流す

Dグループのまとめ意見

1. <物資の確保> 6
- ・雨水の利用（納豆菌など）
 - ・個人で備蓄（2～3日OK、1週間分必要）
2. <人材の育成> 1 6
- ・子どもの意見を取り入れる
 - ・リーダーになる人を見つける
 - ・子ども達の育成（今は学校でやっている）
3. <個人の意識レベルを高めるために> 1 1
- ・教育訓練を行う
（血液型で防災傾向が分かるかも、防災クイズを企画して賞品で人集め）

残したい意見	1 1
・ペットのことも考える (優しい犬の場合、子どもたちとふれあう、他の自治体と協力)	
Eグループのまとめ意見	
1. <防災に対する個人の意識を高める>	1
・食糧の備蓄、家族との話し合い	
2. <地域発信の防災>	4
・積極的に避難訓練に参加、危険箇所の確認(空き家、崖、倒木など)	
3. <市に協力してもらいたい防災>	8
・災害情報の発信	
・備蓄倉庫の説明	
・実体験を聴く機会をつくり意識向上	
残したい意見	1 8
・サバイバル講座—青年向け(合コンを兼ねる)	
・ファミリー向け	
・危険箇所、避難場所の案内板	
Fグループのまとめ意見	
1. <防災の積極的な参加と町籍簿作成の必要性>	2
・地域住民のつながりが大切	
・町内の防災訓練について知る、参加する	
・町籍簿を整備する	
2. <若年層が地域活動に参加できるキッカケづくり>	1 1
・防災意識を持てる人を増やす	
・若い人に防災意識を高めてもらい、ボランティアに参加してもらう	
3. <自治会役員、経験者の継続参加と防災意識の高揚>	6
・町内会に継続的な組織をつくる	
・町内会役員がボランティアに参加する	
残したい意見	1 1
・イベント開催(若年層主体)における市の協力、補助	
Aグループで出た意見(付箋)	
・寝る前、ライフスタイル、タバコ、ビール	
・たこ足やほこりなどコンセントに注意	
・路上駐車で消火栓が使えない、それは止めよう	

- ・ コンセント周りや、気が付かないところへの気付き
- ・ コンセントの掃除等、火災を防ぐため
- ・ 消火栓の位置を把握
- ・ ライフスタイルの見直し、物を整理する
- ・ 地元のラジオ（FM P i P i を聴く）利用する
- ・ ライブカメラの存在を知ってもらって活用する
- ・ 高台へ逃げる（啓発）
- ・ 車にハンマーを入れる
- ・ 町内行事で防災に関したものを組み入れる（例えば運動会など）
- ・ 避難場所は、今は子どもが小さいので話し合いなどしている
- ・ 町内訓練で道は通れるか、危険な場所はないか
- ・ 避難路がふさがれると孤立する
- ・ 予測しやすい災害 → 早めの情報収集
- ・ 防災意識の低さをどうにかする
- ・ 隣近所のつながりは大切、昼間に高齢者しかいない家が多いのが心配
- ・ 多治見市民の防災意識が低い傾向がある
- ・ どこまで仕事を優先させるか（福祉？）
- ・ 自分の命か他人の命を助ける
- ・ 地域ごとに防災として気を付ける事も違ってくる
- ・ 被害の映像を定期的に見て、意識を高めるのも大切
- ・ ポスター（サイネージ、告知、認知、ビジュアルで）
- ・ 看板
- ・ D I G やハザードマップ
- ・ 消火栓が埋め込み型だと路駐の車で消火できない
- ・ 消火栓を地中に埋めるのは良くないのでは？
- ・ ライブカメラ → タイムラインにのせる

Bグループで出た意見（付箋）

- ・ 危険箇所を調べ、対策
- ・ 危険な場所の認識
- ・ 資料があっても認識していないので、一人ひとりの意識改善
- ・ エキスパートがいないと対応心配、若手への伝承
- ・ 緊急避難所の把握、本当にそこで良いのか
- ・ 無関心が一番の問題
- ・ 行政放送作って欲しい
- ・ 第一避難所が危険な場合の対応

- ・観光地、駅周辺の避難経路指示
- ・伝言ダイヤルの徹底
- ・一目でわかる防災マップの掲示
- ・多治見市広域の情報（家にいるとは限らない）
- ・ラジオ（FM P i P i）で聞いて、目でも見れるような看板をリアルタイムでわかるような対策、突発的な状況
- ・大規模災害の時はP i P iの出力UP（市内にいるとは限らない）
- ・災害マップを市民全員に配る
- ・過去の情報を開示してほしい
- ・FM P i P i
- ・情報をどのように周知させるか
- ・個が町内へ浸透
- ・豪雨、震災時に通信手段が不通になった時、家族や隣人など人から人へのつながりが重要
- ・協力し合う
- ・非常袋の準備、常に中身の確認
- ・家族単位での行動（準備等）
- ・市から必要最低限の食料のリストを配布し、毎年見直し指示する
- ・初めての人でもわかる避難マップの掲示、看板の設置
- ・リストを作る（助ける人、動けない人など）
- ・行動、実際どう動くのか
- ・情報を提供してくれた武笠氏などの専門知識を全区に展開し、市が物心両面のサポート体制をとって欲しい（バックアップする）
- ・持続させる
- ・次世代の防災リーダーを育成し、継続させる
- ・危険と安全の判断は冷静な行動が大事、周りにいる人たちの安全の確保
- ・地元の人でなくても分かりやすいルート作り
- ・地域で一時避難所設定

Cグループで出た意見（付箋）

- ・男女、又は同世代が集まる場所をつくる
- ・災害が発生する可能性がある場所の確認
- ・防災マップ作り（参加しない人に配る）
- ・市の環境（地形など）
- ・町内会以外のつながり方（集合住宅の人に関われる、知れる）
- ・一人ひとりの意識向上

- ・助け合い
- ・二次災害の防止
- ・市のホームページを見る会（揺れやすさマップ）
- ・メールマガジンのように情報（防災についての取り組み）等を定期的に配信する
- ・ホームページの情報を集合住宅の掲示板等に張り出す
- ・日常、災害の情報を必要としていない人にどう届けるか
- ・地区ごとで小学校、中学校を一緒に防災訓練を行えるように
- ・地域住民の意識向上（訓練）
- ・市全体で出来る防災訓練
- ・地道に継続する取り組み（長期的な視点）
- ・地域で取り組む
- ・その他（訓練、意識の高揚）
- ・防火、放火の対策、家の周りに可燃物を置かない
- ・防災活動、市と市民がつながっていない、町内会、班、区、頂点に市役所を置く
住民全員の体系にする
- ・土岐川（多治見駅周辺）は近い将来必ずオーバーフローする、異常降雨に対する
避難対策が必要
- ・駅にビジョンを設置して情報を流す

Dグループで出た意見（付箋）

- ・雨水を利用する（飲料水にする、納豆菌を利用する）
- ・納豆菌で汚い水が飲料水になるので、取り入れてほしい
- ・自己防衛のための飲料水化確保
- ・風呂水の確保
- ・冬は燃料
- ・生活用品、生理用品の備え
- ・電気ストーブのため、石油ストーブ、ガスボンベの確保
- ・長期間保存できる飲料水の確保（5年）
- ・個人で日常品の備蓄
- ・個々が防災グッズを備え付ける
- ・薬やガーゼ等の備え
- ・ご近所のつながりを支援する
- ・町内の防災組織作りをより具体的に進める（人材の育成）
- ・子どもの育成が一番早いかもしれない
- ・中心になってリーダーシップをとる人が必要
- ・人財（リーダーになる人）がいると、色々訓練などが出来る

- ・リフォームするときにオール電化で水補給
- ・防災に関するクイズを（プレゼントあり）
- ・血液型で防災の傾向が分かるかも？
- ・防災訓練を兼ねて防災士さんと呼んで、楽しくゲーム感覚で出来るといいな！
- ・町内の祭りの後に防災を呼びかけ、賞品をつけ、ビンゴ等遊びを設けて防災を意識させる
- ・耐震対策の普及
- ・消火器による消火訓練
- ・AEDの取り扱い訓練
- ・豪雪時で孤立者の救助
- ・子どものころから防災意識を植え付ける
- ・雪害があった場合、自治会などでも助ける
- ・火災報知器の設置、消火器の備え付け
- ・地震、煙等の体験訓練の実施（消防署の協力必要）
- ・動物とのふれあいで防災参加を促す
- ・ペット対策
- ・動物の備え

Eグループで出た意見（付箋）

- ・自分とつながっている大切な人たちを守りたい気持ち
- ・自分のモチベーション
- ・家族と災害時にどこに集合するかを話し合う
- ・訓練に来てもらうために各自危機感を持つ
- ・やってないこと（やっていきたいこと）—備蓄の追加確認、消火器
- ・自分がやっていること—備蓄、声掛け、意識
- ・高齢者住宅の確認
- ・お年寄りだけで住んでいる家を確認
- ・町内行事を増やして参加してもらい確認
- ・町内会で住んでいない家（空き家）を確認しました
- ・市民からの防災
- ・崩れやすい建物を無くす（地域から市へお願い）
- ・区の防災イベントに参加する
- ・学校や子どもへの防災対策をしっかりとる
- ・避難訓練（参加できない家庭の事情を確認、助ける体制をつくる）
- ・地区の避難訓練
- ・消火器、消火栓の場所を知るために「子ども会」で防災マップを作りました

- ・自分が住む町で危ない場所を知っていますか？
- ・災害時の市内の状況発信（交通機関、道路）
- ・地域ごとに巡る機会をつくる
- ・意識向上の機会をつくる
- ・備蓄一倉庫の中身を知りたいが全く分からない
- ・実際に遭った人の話を聞く機会が有ったら、危機感が持てるかも
- ・ファミリーサバイバル講座
- ・成年サバイバル講座（出会い）
- ・町内単位で危険箇所、避難場所の案内板を設置してはどうか

F グループで出た意見（付箋）

- ・区長が1年では何もできない
- ・トップダウンの方法に問題はないのか
- ・地域住民とのつながりの大切さ
- ・町内の防災訓練に参加する
- ・高齢者の避難
- ・訓練がされていない
- ・個人での知識、家族での知識
- ・町内の防災訓練について知る
- ・町籍簿の作成
- ・きっかけ作りは？
- ・世代を超えた集まり
- ・若い方のボランティア参加の機会をつくる
- ・意識を持てる人を増やす
- ・温度差がある
- ・学生に対して防災の意識を高める
- ・意識を持つこと
- ・地域の行事から生まれる意識
- ・地区によって訓練内容に差があるが、全市同じ内容で良い訳でもない
- ・市がつながりをつくるようなキッカケ（イベント、企画）があればいいのでは？
- ・町内会の役員→ボランティア
- ・町内会に継続的な組織作り
- ・町内自主防災役員として副隊長をしています
- ・災害ダイヤル171を利用する
- ・イベントの中に防災を取り込む
- ・常日頃、一人ひとりが危機感を持って、毎年訓練すること



- ・高齢者の避難のさせ方も訓練が必要

討議テーマ3. 私たちにできる「防犯」について考えよう

Aグループのまとめ意見	投票数
1. 自分、家族を守る安価で簡易な対策	1 3
・ダミーの防犯カメラ、猛犬シール、「見てます」看板、多機能電話	
2. 皆が見ているぞと思わせるまち作り	7
・見知らぬ人への声掛け	
3. 近所の人とのつながり	3
・認知症、徘徊者の情報共有	
残したい意見	4
・子どもの非行防止、リーダーとなる人材発掘・育成	
Bグループのまとめ意見	
1. 家族から近隣へ、隣近所から各町内へ、各町内から多治見市へ、お互いが お互いを思いやる	6
2. 子どもが描いた絵をタイルなどにつくって設置して予防する	1 1
3. 空き巣などの情報を回覧版や張り紙をして共有する	1 1
残したい意見	1
・センサー付き街路灯設置	
Cグループのまとめ意見	
1. 近所で取り組める活動	3
・危ない場所には近づかない、施錠、自分の身は自分で守る	
2. 地域との協力	8
・声掛け、周囲との信頼関係、自警団、街路樹の美化等	
3. 市の協力	9
・廃墟の管理、解体、交通ルール、道路整備	
残したい意見	1 3
・夜のジョギング、犬の散歩をする人にタスキをかけてもらう (犬にも防犯ベスト)	
Dグループのまとめ意見	
1. 各地域の防犯に対する取り組みの紹介や講習会の開催、 メールや広報を利用した<リアルタイム>での情報公開	1 3

2. 家庭で出来る防災対策（センサーライト、施錠、番犬、砂利等） を実行すると共に、街路灯と防犯カメラの設置	5
3. 「まちの目」として効果的な、下校時の見守り、広報を利用した 挨拶の推奨により不審者を寄せ付けない防犯	10
残したい意見	10
・ 駅北に交番を設置	
Eグループのまとめ意見	
1. 実際に被害に遭った人などの体験談を共有して、防犯につなげる	5
2. 地域の見回り活動の強化を望みます	3
3. 警察の活動	9
・ 警察からオンタイムの情報提供、連携が防犯につながる	
残したい意見	12
・ 散歩中に「パトロール中」のタスキなどのグッズを身に着け、 地域に不審者が近寄り難い状況をつくる	
Fグループのまとめ意見	
1. 子どもを守るために、下校時に放送を流すなど市民に見守ってもら う ・ 子ども110番、防犯パトロールなど市民が進んで協力できるような 組織をつくる	7
2. 声掛けなど、犯罪が発生しにくいと感じるような状況を作り出す ・ パトロールをするなど自主的に活動する組織をつくる	3
3. 暗い場所にセンサーライトを設置するなど、家族で話し合う ・ 防犯の意識を高められる情報提供	4
残したい意見	6
・ ネット犯罪やサイバー犯罪など新しい犯罪が増加している 情報を開示して、子ども達が犯罪に遭わないように、親が指導 できるような環境作り	
Aグループで出た意見（付箋）	
・ 防犯カメラ（ダミー）を設置	
・ 犯罪防止のためLEDライトを活用	
・ ダミーの防犯カメラ設置、みんなの視線があなたに向いている、玄関先に 猛犬注意などの貼り紙をする	
・ ダミーカメラを作る	
・ 「見ています」という看板を設置、みんなが実施して町として意識を高める	

- ・ 電話機を変える
- ・ 猛犬シールを貼る
- ・ 見知らぬ人に積極的な声掛け
- ・ みんなが見ているぞと思わせるまち作り
- ・ 不審者への声掛け
- ・ 町として防犯意識が高いことを不審者に知らしめる
- ・ 情報の共有（認知症、徘徊）
- ・ 日常で地域の方の声掛け
- ・ 信頼できる地域の付き合い
- ・ 自分が犯罪者にならないように子どものころから教育する
- ・ 暴走族の対応、危険行為
- ・ 地域にリーダーを育成する
- ・ 戸締まりの徹底

Bグループで出た意見（付箋）

- ・ 大人同士の挨拶
- ・ 挨拶（知らない人でも）
- ・ 万人に挨拶してもらおう（老若男女）
- ・ 振り込み詐欺 → 名簿、家族同士確認
- ・ 家族でのコミュニケーション、会話をする
- ・ 家庭教育の在り方再検討
- ・ 交通マナーの教育（加害者にも被害者にもならないために）
- ・ 家族全員で食事をとる
- ・ 大人が正しい行動を見せる
- ・ 家庭で防犯の話をする
- ・ 防犯ステッカー（車や自転車）
- ・ 防犯意識のアピール
- ・ 子どもに防犯ポスターを描いてもらう
- ・ 子どもが描いた絵をタイルにして道路に設置
- ・ 街灯 自動スイッチ
- ・ 根本地区での活動を全市に拡大する
- ・ 若者が地域に協力、ボランティアが出来るように呼びかける
- ・ 地域のイベントに参加する
- ・ 子どもは自転車や車に気を付ける
- ・ 空き巣などの情報を回覧版などで回すシステム作り
- ・ 空き巣などがあった時は町内に知らせてほしい

- ・不審者に関する注意など貼り出す
- ・トイレのマナープレート「綺麗に使って呉れて有難う」があるとマナーを守らざるを得ない

Cグループで出た意見（付箋）

- ・子ども達に危機意識を持ってもらう
- ・表札には家族全員の名前を書かない
- ・子どもだけの川遊び
- ・公共交通の活用
- ・ひたたくりに注意して歩く
- ・施錠の忘れ、うっかり、大丈夫だろうをなくす
- ・町の安全を守るのは誰か
- ・青パトの活動 初めて知りました
- ・自転車、自動車の施錠
- ・危ない場所に近づかない
- ・防犯グッズ、何か持っていますか？
- ・仲良しなまち作り、お互いに見守っていく
- ・近所に見慣れない人がいたら声掛け、普段から近所の人に声掛け
- ・声掛けをして子どもの見知った人になっておく
- ・登下校時の声掛け
- ・夜警への地域参加
- ・町内で防犯を考える行事、散歩しながら回ってみる
- ・地域での声掛け
- ・周囲と協力、見張ってもらう
- ・人を孤立させない街づくり
- ・子ども110番を地域で考える
- ・美化に心がける
- ・街路樹の高さ
- ・街路樹や植え込みの整備
- ・いじめの防止、町内で子どもを守る
- ・交通ルールを守る
- ・飲酒運転をさせない
- ・スピードを出せないような道路設計
- ・交通の取り締まりを増やしてほしい
- ・まあいいだろうと軽く考えない
- ・個人 → 町内 → 市



- ・ 廃墟の管理、解体
- ・ 町内で空き家調査をしました
- ・ 過去の情報をまとめた防犯マップの作成
- ・ 市がどこまでやってくれるのか線引き
- ・ 夜ジョギングをする人にパトロールの蛍光タスキを掛けてもらう
- ・ 犬の散歩も防犯タスキを着用する

Dグループで出た意見（付箋）

- ・ 音声、掲示物の活用
- ・ 放送で不審者情報を流す
- ・ 子どもの連れ去り事件
- ・ オンタイムでの情報公開
- ・ 子どもの防犯情報公開
- ・ 防犯を意識する → 自分が被害に遭ってからでは遅い
- ・ 地域ごとの防犯への取り組みを紹介、説明会の実施
- ・ 市役所から最初の働きかけがあると行動しやすい
- ・ セキュリティ管理の補助金
- ・ 番犬を飼う
- ・ 夜間の照明、学区などの照明を増やしてほしい
- ・ 家庭では必ず施錠する
- ・ 犯罪に対する自己防衛
- ・ 高齢者に振り込め詐欺防止のチラシ配布
- ・ 家の周りに砂利を撒く
- ・ 駐車場に照明をつける
- ・ 防犯カメラの設置
- ・ 車上荒らし
- ・ 挨拶運動の徹底
- ・ 青パト講習
- ・ 挨拶、声掛けをすることによりお互いの存在を認識
- ・ 月2回、通学路をパトロールする
- ・ 夏休み期間中、夜間パトロールを実施する
- ・ ママ友からの防犯情報
- ・ 子どもの登下校時に町の人が外に出て見守る
- ・ 児童、生徒への防犯対策の講習、教育
- ・ 下校時に挨拶をしながら帰りましょうと呼びかける
- ・ 街の人による下校時の見守り、挨拶を徹底する

- ・ 駅北に交番を設置してほしい
- ・ 「弱者を守る会」を立ち上げる

E グループで出た意見（付箋）

- ・ 銀行に勤務中、振り込め詐欺を防止
- ・ ご近所付き合い
- ・ 離れた家族との連絡
- ・ 近所とのつながりが防犯になる
- ・ 留守電、ナンバーディスプレイの電話機能を活用する
- ・ 井戸端会議を増やすことが情報の共有につながる
- ・ 空き巣に遭いやすい雨の日など情報をみんなで共有する
- ・ 振り込め詐欺の手口などを共有し、家族で対策を話し合う
- ・ 放置車両や、夜間のゴミ集積場などは放火されやすい
- ・ 門燈を点灯することで不審者を寄せ付けない
- ・ 犬の散歩などは下校時に併せて、パトロールする
- ・ 空き家の対策
- ・ 振り込め詐欺は金融機関と情報を共有し、市民に公開する
- ・ 家の死角を無くし、外から見えるようにしておく
- ・ 電話は留守電などの機能を活用する
- ・ 防犯パトロール、散歩などで見守りタスキなどのグッズを着用する
- ・ 安全パトロールを下校時、夜間のみでなく昼間にも行う
- ・ 警察から犯罪情報をオンタイムで聞きたい
- ・ 欲をかかないことが犯罪被害の抑止になる

F グループで出た意見（付箋）

- ・ 防犯意識の向上
- ・ 子どもに通学路の子ども110番の家を教える
- ・ 防犯パトロールに若い人に参加してもらう
- ・ この道パトロール重点地区等、看板などで明示する
- ・ 子どもに下校時間の放送をさせ、見守りをしてもらうようにする
- ・ 子ども110番の協力者を増やす
- ・ 通学路の安全確保のため、声掛けを推進する
- ・ 虐待、不審者など異常な情報を共有する
- ・ 定年退職などで時間に余裕のある人の協力を得て、防犯組織を編成する
- ・ 挨拶など知らない人にも積極的に声掛けをする
- ・ パトロールなど、交代で参加できる環境を整備する

- ・ 普段散歩している人に防犯グッズの着用をお願いする
- ・ 郵便配達や、宅配業者に協力をお願いして見守りをする
- ・ 道路や住宅を明るくして防犯につなげる
- ・ ネット犯罪の被害者にならないように子どもたちを教育する
- ・ 下着ドロボーから守るには、見えなくしたり、早めに取り込む
- ・ 死角になるところにセンサーライトをつける
- ・ 定年退職者など余裕のある人に、知識や経験を活かした見守りをお願いする

資料 2. 参加者アンケート

参加者全員にアンケートへの回答をお願いし、以下のような結果を得た。

設問 1. 参加動機についてお聞かせください（複数回答可）

無作為抽出で選ばれたから	21	(46.6%)
テーマに関心があった	7	(15.6%)
新しい市民参加型だから	7	(15.6%)
その他の理由	10	(22.2%)

自由記述（主なもの）

- ・ 40代 男性 市民の義務だと思った
- ・ 60代 女性 多治見で生まれ育ったから住みよいまちづくりが出来たらと思った
- ・ 50代 男性 参加することで何かを感じたかった
- ・ 30代 男性 多治見市に非常に興味を持っていた

行政に関心を持ち、多治見を住み良くしたいという市民の意識の高さが示されている。

設問 2. この討議会は、市民の声を行政に伝える手法として適していると思いますか？

適している	20	(60.6%)
分からない	12	(36.4%)
適していない	0	(0.0%)
その他	1	(3.0%)

自由記述

- ・ 50代 女性 30数人だけの意見で良いのか？

やや懐疑的な指摘もあるが、一般市民の平均的な意見を集約できたと考える。

設問 3. これまでに地区懇談会など、市が主催する討論の集まりに参加したことがありますか？

ある	4	(11.8%)
ない	30	(88.2%)

設問 1 で行政への関心が窺われるが、日常では実践できていない実情がうかがわれる。
(設問 6 の謝礼の有無も関係するのか?)

設問 4. 市民討議会に限らず多治見市の市民参加の企画に今後も参加したいと思いま
すか?

参加したい	6	(17.7%)
都合が合えば参加したい	25	(73.5%)
参加したくない	3	(8.8%)

自由記述

- ・ 50代 男性 色々な人と出会いがある
- ・ 60代 男性 依頼があれば参加するが、積極的には希望しない
- ・ 50代 男性 多種多様なテーマで開催してほしい、積極的に参加する

積極的参加には賛否両論あるが、概ね関心の高さを表している。

設問 5. より具体的な感想 (意識の変化) をお聞かせください (複数回答可)

参画意識がより持てた	11	(22.4%)
積極的に行動すべき	25	(51.0%)
行政に関心が持てた	10	(20.4%)
特に変化はない	3	(6.2%)

自由記述 (主なもの)

- ・ 50代 女性 行政にお願いする事、自分で出来る事が理解できた
- ・ 自分で出来る事はやる
- ・ 60代 女性 積極的に行動すべきと思った
- ・ 多治見を変えるのは自分自身であると意識が変わった
- ・ 20代 男性 自ら声を発するべきと思った
- ・ 40代 女性 無関心ではなく、出来る事はやっていきたい
- ・ 50代 男性 思っているけど行動できなかった
- ・ 多治見が好きだから積極的に参画したい

半数が積極的に行動すべきと、意識の変化を感じており参画意識の向上を示している。

設問 6. 謝礼についてどのように感じますか?

あった方がよい	27	(81.8%)
ない方がよい	2	(6.1%)
その他	4	(12.1%)

自由記述

- ・ 50代 女性 自分の言葉に責任が生まれる

- ・40代 女性 あっても良い
- ・20代 男性 謝礼の有無に関わらず参加する人は参加する
- ・40代 男性 辞退可能で、提言実現に流用するのも良い
- ・50代 男性 弁当と飲料水だけで十分
- ・40代 女性 少額でも良い

肯定的意見が多いが、不要・他への活用の意見もある。一考の余地はある。

設問7. 討議会のスタッフとして参加してみたいと思いますか？

参加したい	6	(17.7%)
参加したくない	8	(23.5%)
分からない	20	(58.8%)

積極的に参加したいと回答した方には、次回討議会の実行委員としてお誘いをする。

設問8. 今後、市民討議会の討議テーマにした方が良くと思うテーマや、日頃関心のあるまちづくりに関する事項がありましたらお聞かせください。

自由記載（主なもの）

- ・20代 女性 買い物難民について
- ・50代 女性 空き家、高齢者対策
- ・60代 女性 高齢化社会にどう取り組むか
- ・30代 男性 多治見というまちの立ち位置について
- ・60代 男性 高齢者の働く場について

高齢化する社会に対する対応について真剣に考えている。また、多治見市の理想的なまちづくりについての意見もある。今後の参考にしたい。

設問9. 選挙年齢が引き下げられた場合、市民討議会の参加対象を18歳以上とすることについて

良いと思う	26	(76.4%)
まだ早いと思う	4	(11.8%)
分からない	4	(11.8%)

自由記載

- ・60代 女性 権利と義務を理解しているか不明
- ・60代 女性 若い意見を聴くべき。これからの多治見を支え、作っていく人たち
- ・40代 男性 選挙の意味が分かり意識を向上させる
- ・50代 男性 あらゆる方面からの意見は大切。背中を押すきっかけが必要

概ね肯定的意見であるが、今後の参考としたい。

Heart of Tajimi 75 10
-たじみ市民討議会2015-
主催：たじみ市民討議会実行委員会 共催：多治見市 協力：(一社)多治見青年会議所

